

つきて證せり。ペテロの言を諸人の間を讀む。諸人の凡の者に聖靈降り。ペテロは諸人來りし割禮ある信者等。聖靈の賜の異邦人にまで注ぐる事を駭きぬ。この異なる邦人の方言にて彼等が語れると。神を讀むとを聞かれた也。此處ペテロは答ける。我儕の如く既に聖靈を受たる此人々。水 baptism を受けて。彼等ペテロを數日留らんとすることを請へり。

第 一 節 使徒等およびエマテ中。在りてこの兄弟すでに異邦人も神の道を受たりと。聞。ペテロエルサレムの上。じと。き割禮ある者ども。彼と争ひ。日ける。我儕ハ割禮なき人の家に入て。彼等と同お食せり。ペテロの有し。始より次第に。語て。彼等に顯し。日ける。我ヨツパの邑に在て。祈れるとき。氣を喪へる心地して。天より。四角を繋たる。大なる布の如き器の下を見たるに。其器わが前に著り。われ目を注て。熟々之を視。ハ。中に。地の。四足のもの。野獸。長。鬣。および。空の。鳥。ありき。且。われに。ペテロ。よ。起て。之を。殺し。食すべし。と。日る。聲を。開り。我。ひ。ける。主。よ。可。ら。し。穢。たる。物。と。潔。から。ざる。物。ハ。未。だ。我。口。に。入。じ。て。な。し。聖。また。天。より。我。に。答。て。神。の。潔。たる。物。を。翻。潔。から。ず。と。爲。な。か。れ。と。日。此。の。如。き。と。三。次。つ。ひ。に。各。物。よ。た。り。び。天。に。引。上。ら。れた。り。其。時。に。當。て。カイ。サ。リ。ア。より。我。に。遣。せる。三。人。の。者。わ。が。居。て。この。家。の。前。に。立。り。また。靈。わ。れ。に。疑。と。ま。し。て。彼。等。と。偕。に。往。べ。し。と。日。り。且。之。の。六。人。の。兄。弟。も。我。と。偕。に。往。て。其。人。の。家。に。入。ぬ。かれ。我。儕。に。つ。て。天。の。使。者。の。我。家。に。立。わ。れ。に。向。て。人。を。ヨ。ツ。パ。へ。遣。し。ペ。テ。ロ。と。稱。し。モ。ン。を。迎。よ。其。人。な。ん。ぢ。及。び。爾。の。家。族。の。叔。と。る。べき。言。を。告。ん。と。日。る。を。見。たり。と。斯。て。我。か。た。り。始。し。と。き。聖。靈。は。じ。め。我。儕。に。降。じ。如。く。彼。等。に。も。降。れ。り。其。時。わ。れ。主。の。日。た。ま。へ。る。ヨ。ハ。ナ。リ。水。を。以。て。バ。プ。テ。スマ。を。施。た。れ。ども。爾。曹。ハ。聖。靈。に。由。て。バ。プ。テ。スマ。を。

一 使徒行傳三章十五節
二 使徒行傳三章十六節
三 使徒行傳三章十七節
四 使徒行傳三章十八節
五 使徒行傳三章十九節
六 使徒行傳三章二十節
七 使徒行傳三章二十一節
八 使徒行傳三章二十二節
九 使徒行傳三章二十三節
十 使徒行傳三章二十四節
十一 使徒行傳三章二十五節
十二 使徒行傳三章二十六節
十三 使徒行傳三章二十七節
十四 使徒行傳三章二十八節
十五 使徒行傳三章二十九節
十六 使徒行傳三章三十節
十七 使徒行傳三章三十一節
十八 使徒行傳三章三十二節
十九 使徒行傳三章三十三節
二十 使徒行傳三章三十四節
二十一 使徒行傳三章三十五節
二十二 使徒行傳三章三十六節
二十三 使徒行傳三章三十七節
二十四 使徒行傳三章三十八節
二十五 使徒行傳三章三十九節
二十六 使徒行傳三章四十節
二十七 使徒行傳三章四十一節
二十八 使徒行傳三章四十二節
二十九 使徒行傳三章四十三節
三十 使徒行傳三章四十四節
三十一 使徒行傳三章四十五節
三十二 使徒行傳三章四十六節
三十三 使徒行傳三章四十七節
三十四 使徒行傳三章四十八節
三十五 使徒行傳三章四十九節
三十六 使徒行傳三章五十節
三十七 使徒行傳三章五十一節
三十八 使徒行傳三章五十二節
三十九 使徒行傳三章五十三節
四十 使徒行傳三章五十四節
四十一 使徒行傳三章五十五節
四十二 使徒行傳三章五十六節
四十三 使徒行傳三章五十七節
四十四 使徒行傳三章五十八節
四十五 使徒行傳三章五十九節
四十六 使徒行傳三章六十節
四十七 使徒行傳三章六十一節
四十八 使徒行傳三章六十二節
四十九 使徒行傳三章六十三節
五十 使徒行傳三章六十四節
五十一 使徒行傳三章六十五節
五十二 使徒行傳三章六十六節
五十三 使徒行傳三章六十七節
五十四 使徒行傳三章六十八節
五十五 使徒行傳三章六十九節
五十六 使徒行傳三章七十節
五十七 使徒行傳三章七十一節
五十八 使徒行傳三章七十二節
五十九 使徒行傳三章七十三節
六十 使徒行傳三章七十四節
六十一 使徒行傳三章七十五節
六十二 使徒行傳三章七十六節
六十三 使徒行傳三章七十七節
六十四 使徒行傳三章七十八節
六十五 使徒行傳三章七十九節
六十六 使徒行傳三章八十節
六十七 使徒行傳三章八十一節
六十八 使徒行傳三章八十二節
六十九 使徒行傳三章八十三節
七十 使徒行傳三章八十四節
七十一 使徒行傳三章八十五節
七十二 使徒行傳三章八十六節
七十三 使徒行傳三章八十七節
七十四 使徒行傳三章八十八節
七十五 使徒行傳三章八十九節
七十六 使徒行傳三章九十節
七十七 使徒行傳三章九十一節
七十八 使徒行傳三章九十二節
七十九 使徒行傳三章九十三節
八十 使徒行傳三章九十四節
八十一 使徒行傳三章九十五節
八十二 使徒行傳三章九十六節
八十三 使徒行傳三章九十七節
八十四 使徒行傳三章九十八節
八十五 使徒行傳三章九十九節
八十六 使徒行傳三章一百節
八十七 使徒行傳三章一百零一節
八十八 使徒行傳三章一百零二節
八十九 使徒行傳三章一百零三節
九十 使徒行傳三章一百零四節
九十一 使徒行傳三章一百零五節
九十二 使徒行傳三章一百零六節
九十三 使徒行傳三章一百零七節
九十四 使徒行傳三章一百零八節
九十五 使徒行傳三章一百零九節
九十六 使徒行傳三章一百一十節
九十七 使徒行傳三章一百一十一節
九十八 使徒行傳三章一百一十二節
九十九 使徒行傳三章一百一十三節
一百 使徒行傳三章一百一十四節

受んと。の。言。を。憶。起。せ。り。既。に。神。ハ。主。イ。ニ。ス。キ。リ。ス。ト。を。信。ず。る。所。の。我。儕。に。賜。じ。如。か。な。し。賜。物。を。彼。等。お。予。た。ま。へ。バ。我。い。か。で。神。に。違。ふ。と。を。得。ん。や。彼。等。の。事。を。聞。て。答。へ。る。所。な。く。惟。神。を。崇。い。ひ。ける。ハ。實。に。然。ら。ん。異。邦。人。の。生。を。得。ん。爲。に。彼。等。に。も。悔。改。を。手。給。へ。る。事。一。倍。ス。ラ。バ。ン。に。就。て。起。り。苦。難。に。因。て。欺。され。たる。人。人。旅。して。ペ。テ。ロ。及。フ。ロ。バ。及。フ。レ。テ。オ。ク。に。至。じ。が。惟。ユ。ダ。ヤ。人。に。の。み。道。を。語。る。彼。等。の。中。に。ク。ロ。テ。レ。テ。の。人。人。あ。り。て。フ。レ。テ。オ。ク。に。來。り。主。イ。ニ。ス。の。福。言。を。宣。て。キ。リ。ス。チ。ヤ。人。に。も。語。れ。り。主。の。手。これ。と。偕。に。わ。り。多。の。人。信。じて。主。に。歸。せ。り。彼。等。に。就。て。其。聞。之。エ。ル。サ。レ。ム。に。在。り。て。この。の。教。會。の。耳。に。入。し。バ。遂。に。バ。ル。ナ。バ。を。遣。し。て。フ。レ。テ。オ。ク。に。至。し。び。彼。等。に。喜。び。神。の。恩。を。見。て。喜。ぶ。彼。等。に。心。を。堅。し。主。に。屬。ん。と。を。勸。たり。蓋。し。カ。レ。ハ。善。人。に。て。聖。靈。と。信。仰。の。滿。る。者。な。れ。心。な。り。是。に。就。て。數。多。の。人。主。に。加。り。ぬ。倍。バ。ル。ナ。バ。ハ。サ。ウ。ロ。を。導。ん。た。め。に。タ。ル。シ。に。赴。き。彼。に。遇。て。之。を。フ。レ。テ。オ。ク。に。携。來。れ。り。斯。て。彼。等。一。年。の。間。も。に。教。會。に。集。り。て。衆。の。長。を。教。ふ。弟。子。た。ち。の。キ。リ。ス。チ。ヤ。ン。と。稱。ら。れ。し。ハ。フ。レ。テ。オ。ク。よ。り。始。れ。り。この。の。教。會。の。預。言。者。エ。ル。サ。レ。ム。よ。り。フ。レ。テ。オ。ク。に。來。る。もの。中。の。一。人。フ。ガ。ト。と。名。る。もの。起。て。靈。に。よ。り。而。し。ける。ハ。偏。く。世界。に。大。なる。饑。饉。わ。ら。ん。と。其。こと。果。して。ク。ラ。ウ。フ。カ。イ。ザ。ル。の。時。に。起。たり。是。に。就。て。弟。子。た。ち。各。々。の。力。量。に。従。ひ。て。ク。ヤ。ヤ。に。住。る。所。の。兄。弟。を。濟。ん。爲。に。彼。等。に。物。を。贈。た。こと。を。定。め。遂。に。斯。事。を。行。ふ。則。ち。バ。ル。ナ。バ。と。サ。ウ。ロ。の。手。お。托。して。之。を。長。老。に。送。れ。り。

第 二 節 當時。ハ。ロ。マ。王。教。會。の。中。の。數。人。を。困。苦。さ。ん。と。て。彼。等。を。執。ふ。か。つ。つ。を。も。て。ヨ。ハ。ナ。の。兄。弟。ヤ。コ。ブ。を。殺。せ。り。此。事。の。ユ。ダ。ヤ。人。の。意。に。適。る。を。見。て。彼。等。た。は。ペ。テ。ロ。を。執。ふ。此。時。ハ。除。酵。の。日。な。ら。ず。既。に。彼。等。を。執。て。獄。に。い。れ。逾。越。節。の。れ。ち。民。の。前。に。曳。出。さ。ん。と。欲。ひ。十六。人。の。兵。卒。に。之。を。守。し。め。たり。ペ。テ。ロ。ハ。如。

一 使徒行傳三章五十一節
二 使徒行傳三章五十二節
三 使徒行傳三章五十三節
四 使徒行傳三章五十四節
五 使徒行傳三章五十五節
六 使徒行傳三章五十六節
七 使徒行傳三章五十七節
八 使徒行傳三章五十八節
九 使徒行傳三章五十九節
十 使徒行傳三章六十節
十一 使徒行傳三章六十一節
十二 使徒行傳三章六十二節
十三 使徒行傳三章六十三節
十四 使徒行傳三章六十四節
十五 使徒行傳三章六十五節
十六 使徒行傳三章六十六節
十七 使徒行傳三章六十七節
十八 使徒行傳三章六十八節
十九 使徒行傳三章六十九節
二十 使徒行傳三章七十節
二十一 使徒行傳三章七十一節
二十二 使徒行傳三章七十二節
二十三 使徒行傳三章七十三節
二十四 使徒行傳三章七十四節
二十五 使徒行傳三章七十五節
二十六 使徒行傳三章七十六節
二十七 使徒行傳三章七十七節
二十八 使徒行傳三章七十八節
二十九 使徒行傳三章七十九節
三十 使徒行傳三章八十節
三十一 使徒行傳三章八十一節
三十二 使徒行傳三章八十二節
三十三 使徒行傳三章八十三節
三十四 使徒行傳三章八十四節
三十五 使徒行傳三章八十五節
三十六 使徒行傳三章八十六節
三十七 使徒行傳三章八十七節
三十八 使徒行傳三章八十八節
三十九 使徒行傳三章八十九節
四十 使徒行傳三章九十節
四十一 使徒行傳三章九十一節
四十二 使徒行傳三章九十二節
四十三 使徒行傳三章九十三節
四十四 使徒行傳三章九十四節
四十五 使徒行傳三章九十五節
四十六 使徒行傳三章九十六節
四十七 使徒行傳三章九十七節
四十八 使徒行傳三章九十八節
四十九 使徒行傳三章九十九節
五十 使徒行傳三章一百節
五十一 使徒行傳三章一百零一節
五十二 使徒行傳三章一百零二節
五十三 使徒行傳三章一百零三節
五十四 使徒行傳三章一百零四節
五十五 使徒行傳三章一百零五節
五十六 使徒行傳三章一百零六節
五十七 使徒行傳三章一百零七節
五十八 使徒行傳三章一百零八節
五十九 使徒行傳三章一百零九節
六十 使徒行傳三章一百一十節
六十一 使徒行傳三章一百一十一節
六十二 使徒行傳三章一百一十二節
六十三 使徒行傳三章一百一十三節
六十四 使徒行傳三章一百一十四節
六十五 使徒行傳三章一百一十五節
六十六 使徒行傳三章一百一十六節
六十七 使徒行傳三章一百一十七節
六十八 使徒行傳三章一百一十八節
六十九 使徒行傳三章一百一十九節
七十 使徒行傳三章一百二十節
七十一 使徒行傳三章一百二十一節
七十二 使徒行傳三章一百二十二節
七十三 使徒行傳三章一百二十三節
七十四 使徒行傳三章一百二十四節
七十五 使徒行傳三章一百二十五節
七十六 使徒行傳三章一百二十六節
七十七 使徒行傳三章一百二十七節
七十八 使徒行傳三章一百二十八節
七十九 使徒行傳三章一百二十九節
八十 使徒行傳三章一百三十節
八十一 使徒行傳三章一百三十一節
八十二 使徒行傳三章一百三十二節
八十三 使徒行傳三章一百三十三節
八十四 使徒行傳三章一百三十四節
八十五 使徒行傳三章一百三十五節
八十六 使徒行傳三章一百三十六節
八十七 使徒行傳三章一百三十七節
八十八 使徒行傳三章一百三十八節
八十九 使徒行傳三章一百三十九節
九十 使徒行傳三章一百四十節
九十一 使徒行傳三章一百四十一節
九十二 使徒行傳三章一百四十二節
九十三 使徒行傳三章一百四十三節
九十四 使徒行傳三章一百四十四節
九十五 使徒行傳三章一百四十五節
九十六 使徒行傳三章一百四十六節
九十七 使徒行傳三章一百四十七節
九十八 使徒行傳三章一百四十八節
九十九 使徒行傳三章一百四十九節
一百 使徒行傳三章一百五十節

ける人々兄弟よ若民に勸るゝこと有ハ言バウロ起て手を擡じ曰けるハイスラエルの人々よび神を敬ふ者よ爾曹聽べし此イスラエルの民の神ハ我儕の先祖たちを遺び其民のエゾプトの地に旅をりし時てれを育かつ勁手を以て彼等を彼處より導き出し約々四十年のわひだ野にて之を撫養ひ又カナンの地の七族の民を滅し其地を彼等に嗣しめ後およる四百五十年のわひだ即ち預言者サムエルの時まで之小審士を興たまへり厥後かれら王を求めければ四十年の間ニヤシムンの支派キムの子サウルを賜ふ後また彼を徒しダビデを立て彼等の王となし且これが爲に證して曰たまひけるハ我エツサイの子ダビデ云る我心に合ふ人を得たり彼ハ凡て我旨を行遂べし神ハ其約束に従ひて斯人の裔より救主イエスをイスラエルに興し給りとの來る前ヨハシ先イスラエルの凡の民ハ悔改のバプテスマを宣傳たりヨハシその職を行ひし時ひけるハ爾曹われを誰と惡んや我ハ非ず我より後來者なり我ハ其足の塵を解かも足ざる者なり人々兄弟アブラハムの子孫および爾曹のうち神を敬ふ者よ此彼の道を爾曹も遵たまへり夫エサルサレムお住る者および其有司たちハキリストを知ず彼を罪人定て安息日ごとに讀どこの預言者の言を成しめたりかつ救すべき故を得ざれどもピラトに之を殺さんことを求め巴に彼に就て録はれたる凡の言を成しめければ之を木より下して墓に置り然ども神ハ之を死より甦らせ給り多日の間かれハカラヤより巴に僂にエサルサレムに上し者に現れたり今かれの爲に證を民ホする者ハ其ハ人々なり我儕も喜の音を爾曹につく神ハイエスを甦らせ先祖等に立たせよひし約束を其子孫たる我儕に成たまへり即ち詩の第二篇に爾ハ我子なり我今日なんぢを生りて録されたるが如しまた朽壞に歸せざる様ホ彼を死より甦らす事ホ成てり左の如く言り云われダビデに約束せし所の應ひべき恵を爾

三 七節六七一
四 七節六七一
五 七節六七一
六 七節六七一
七 七節六七一
八 七節六七一
九 七節六七一
十 七節六七一
十一 七節六七一
十二 七節六七一
十三 七節六七一
十四 七節六七一
十五 七節六七一
十六 七節六七一
十七 七節六七一
十八 七節六七一
十九 七節六七一
二十 七節六七一
二十一 七節六七一
二十二 七節六七一
二十三 七節六七一
二十四 七節六七一
二十五 七節六七一
二十六 七節六七一
二十七 七節六七一
二十八 七節六七一
二十九 七節六七一
三十 七節六七一
三十一 七節六七一
三十二 七節六七一
三十三 七節六七一
三十四 七節六七一
三十五 七節六七一
三十六 七節六七一
三十七 七節六七一
三十八 七節六七一
三十九 七節六七一
四十 七節六七一
四十一 七節六七一
四十二 七節六七一
四十三 七節六七一
四十四 七節六七一
四十五 七節六七一
四十六 七節六七一
四十七 七節六七一
四十八 七節六七一
四十九 七節六七一
五十 七節六七一

曹乎す可也是故に又彼の篇に爾ハ其聖者を枲果めずと云り夫ダビデハ神の旨ホ遵ひ其世の爲に勞苦しちち寝て先祖たちと僂に置れ遂に枲果たり然ども神の甦らせ給り者ハ枲果ざりき然ハ人々兄弟よ此人に由て罪の赦の爾曹に傳れるを知爾曹モトセの律法に依て義と爲るゝこと能ざる凡の罪も信する者ハ皆かれホ由て救され義とせらるゝ也然ハ爾曹慎よ恐ハ預言者の書に言れたる事なんからに臨ん曰く爾勿者よ聽て駭き且よ蓋われ爾曹の日に一の事を行之人これ爾曹に告るゝども爾曹信せざる可れな也○かれら會堂を出たせしむべき次の安息日に復この事を宣よと請れたり會すばに敬して多のユダヤ人および其教に入し神を敬ふ人々バウロとバルナバに從へりバウロバルナバ彼等に語て恒に神の恩に居ん事を勸む次の安息日に至り邑の人々神の道を聽たんとて幾ど皆集まれりとの多く集れるを見てユダヤ人嫉妬の心に薄せて争辯かつ訴りバウロが言どころを拒めりバウロとバルナバ綴然して曰けるハ夫神の道ハ必ず先爾曹に告べきなり然ども爾曹ハ之を棄かつ己ハ永生を受べき者に非ずと自ら定たれば我儕憐れて異邦人に向ふべし蓋主ホ我儕に命ト給へり曰く爾救となりて地の極にまで及んん爲に我なんぢを立て異邦人の光となせり異邦人の光なき喜びて主の道を讚美すばて永生に定られたる者ハ信せり是に於て主の道ホ女ねく此地に廣りぬ然るホユダヤ人神を敬ふ貴婦等および邑の會長たる人々の心を動させてバウロとバルナバを窘迫りの境より逐出せり二人ハ彼等に對ひ足の塵を打擲ひてイエスキヤに至れり斯て弟子等ハ大に喜樂を懷かつ聖靈に盈されたり二人の者イエスキヤに於て共にユダヤ人の會堂に入て道を傳へユダヤ人およびギリシヤ人多く信せしめたり然に信せざるユダヤ人異邦人を唆て其心に兄弟を憤しむ彼等ハ久しく彼處に留り

一 七節六七一
二 七節六七一
三 七節六七一
四 七節六七一
五 七節六七一
六 七節六七一
七 七節六七一
八 七節六七一
九 七節六七一
十 七節六七一
十一 七節六七一
十二 七節六七一
十三 七節六七一
十四 七節六七一
十五 七節六七一
十六 七節六七一
十七 七節六七一
十八 七節六七一
十九 七節六七一
二十 七節六七一
二十一 七節六七一
二十二 七節六七一
二十三 七節六七一
二十四 七節六七一
二十五 七節六七一
二十六 七節六七一
二十七 七節六七一
二十八 七節六七一
二十九 七節六七一
三十 七節六七一
三十一 七節六七一
三十二 七節六七一
三十三 七節六七一
三十四 七節六七一
三十五 七節六七一
三十六 七節六七一
三十七 七節六七一
三十八 七節六七一
三十九 七節六七一
四十 七節六七一
四十一 七節六七一
四十二 七節六七一
四十三 七節六七一
四十四 七節六七一
四十五 七節六七一
四十六 七節六七一
四十七 七節六七一
四十八 七節六七一
四十九 七節六七一
五十 七節六七一

彼を遣せり 爾等が民を教へ且イエスの事をいひ死より復生の事を宣ふより 祭司厥司および...

イの人たち心を慍し其民お語れるとき突然きたりて 親手て之を執りて明日まで獄を囚...

の長アソナキヤバヨハ子アプレキヤンブルと祭司の長の凡の族ユルサレムに集り 使徒等を其中お...

て問けるり爾曹何の權ぞた何の名に由て之を行ひしや 其時ユロ聖靈に滿され彼等に曰ける...

司およびイエラエルの長老よ 我憐も病たる人に行ひし善事かつき之を如何して愈しと今日...

ハ爾曹とイエラエルの民もみな知べし其なんがら十字架に釘しとてろ神の難らせ給し所の...

イエスキリストの名お由て此人懲罰なることを得なんがら前に立ちたりと 此れ即ち爾曹工匠の...

の石屋の隅の首石となれる者なり 此は別お救ある事なし善天下の八の中お我儕の依頼て...

の名を賜され心地 爾等ベテロとヨハソの思憐る所なきを見て其無學の小民なるを識ハ之を奇...

うのイエと偕に在しを知 かつ癒されたる人の彼等と偕に立るを見により厥すべき言なか...

彼等に命じて集議所を去しゆ後に相議て曰けるハ この二人に何を處べきや彼等が既に著き...

る事ハ凡てユルサレムに居者の明かに知とて地われら之を言滅とて能す 然ても此事の猶...

傷らざる爲に彼等を恐喝し此後うの名に就て人に語ることを勿しめん 遂に彼等を召て更に...

就て語ることを教ふことを爲なかれと戒む ヲテロヨハ手彼等に答て曰けるハ神に聴よりも...

ハ神の前に在て義たらんか爾曹みづから之を判よ われら見しとてろ聞し所のものい言ざるを得...

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

二人の所爲に因て神を祭られ彼等民を畏れ此二人を罪するに由なく更に之を恐喝して釋せり...

人々うの所爲に因て神を祭られ彼等民を畏れ此二人を罪するに由なく更に之を恐喝して釋せり...

奇ある跡に由て癒されたる人ハ四十餘餘なりき 〇 かれら釋されて其友の所にゆき祭司の長と長老の...

言しことを悉く告うの友これを開て心合せ神に對ひ聲を揚て曰けるハ主よ爾ハ天と地と海と其中の...

實物を造たむひし神なり ながら曾て其僕ザビデの口に記て何故に異邦人ハ喧嘩もろくの民ハ徒事を...

請る手地の玉等ハ起て群俗と共に集り主および其キリストに連ふと云り うれ誠ハプロテボツチ...

テラト異邦人およびイエラエルの民相共に此城に集り爾が膏を注なる聖僕イエスに逆へり 此れ爾の...

手なんがの旨にて預じめ定め給ひし事を彼等ハ成るなり狂主よ今かれらの思憐を見んてへ願くハ爾が手...

を伸て醫を施し爾の聖僕イエスの名に記て休徴と奇跡を行とし爾の僕等に應ずることなく爾の道...

を宣ることを得させよ かれら祈禱を申し時うの集れるところ震動みな聖靈に滿ざれて應ずる所なく神...

の道を宣 〇 信者ハみな心を一にし意を一にし誰一人うの所有を己が物と云となく凡て之を共に有...

り 使徒たち大なる能をもてイエスの輝りし事を證し彼等みな大なる恩を蒙れり 其中に一人も窮乏...

者なかりき蓋地所あるひの家を有る者ハ其を售て其售し所の價を擧來り 使徒等の足下に置てこれを各々...

の用に從ひて分子しつ故なり レビの族にてグラトに生じヨセフハ使徒等に呼れてバルナバと稱る之を...

譯バ樹慰の子 この八田嘴ありけるが其を售てうの金を擧來り使徒等の足下に置り...

然るにアナニアといふ人うの妻サツピラ一同に産業を擧うの價の幾分を藏し餘の幾分を擧來...

りて使徒等の足下に置り其妻も之を知り 〇 ヲテロ曰けるハアナニアよ何故に爾の心サツピラに滿ざれ聖靈...

お對ひ偽て地所の價の幾分を藏す事をせし手 地所のまだ售ざる時ハ爾の有ならずや已に售たりども亦...

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

イ本二二三節中

主に頼りて傳ふ主道は彼等の手に休むべきなる跡を行はしめて其恩の遺を誇せり。邑の人々二に分裂せり。ニヤヤ人に與し或の信徒等に與せり。斯て異邦人ニヤヤ人および其有司たち共に擯上彼等を辱しめ右にて數んとす。二人の考之を知てルカオニヤの邑なるルメララデラ及其四周の地に逃れ彼處お於て福音を傳ふ。ルメララ一人の足弱もの坐しぬたり。彼の生來の跛者にて未だ歩してとまじ。此人パウロの語をを聽せり。パウロの目を注ぎ其愈さるべき信仰あるを視。大體に曰けるハ爾の足にて正しく歩み彼踵して行り。人々パウロの爲し事を見て驚を擧ルカオニヤの方言にて曰けるハ諸神人の形になりて我儕に臨れり。彼等ルメララをセウラと稱す。パウロハ專ら談話事をする人なるが故にヘルメスと之を稱す。時に其邑の前におる所のセウラの祭司權と花冠を門に携來りて衆の人と共に犧牲を獻げ彼等を祭んとせり。使徒パウロパウロ之を開て己が衣を裂としり出て大衆の中に入。嗚咽云けるハ人々よ何故に此事を行や我儕も亦なながら同情をもつ所の人なり。爾曹に福音を傳へるハ爾曹をして此虚妄を捨て天と地と痛ぢよ。其の中の舊物を造り給へ。活神に歸しめんが爲なり。往にし世にハ神すべての異邦人に其己が道を行むてを容し給ひ。また爾等を惡て天より雨を降せ。豐饒なる時候をあたへ。糧と喜樂をもて爾曹の心を満しめ。己がババから證せざりし事なし。此言を以て苦辛して衆の人の己等に犧牲を獻ぐんとするを止たり。○時にユダヤ人等アラオクノイコニオムより來りて多の人を唆め石をもてパウロを擊しめ。既に死たりと意ひ邑外に曳出せり。弟子等々の周圍に立ちて曰く。彼を以て曰く。ハバルナバと借にテラレ。往り。斯て其邑に福音を傳へ多の人を弟子となし。又アラオクノイコニオムアラオクノイコニオムに返り。弟子等の心を堅し。其常に信仰お居ることを勸め。又とほくの難難を隨て我儕が神の國に至る可こと。

イ 可六廿 卷二四
ロ 可三〇 卷八
ハ 可五〇 卷九
ニ 可五〇 卷九
三 可五〇 卷九
四 可五〇 卷九
五 可五〇 卷九
六 可五〇 卷九
七 可五〇 卷九
八 可五〇 卷九
九 可五〇 卷九
十 可五〇 卷九
十一 可五〇 卷九
十二 可五〇 卷九
十三 可五〇 卷九
十四 可五〇 卷九
十五 可五〇 卷九
十六 可五〇 卷九
十七 可五〇 卷九
十八 可五〇 卷九
十九 可五〇 卷九
二十 可五〇 卷九
二十一 可五〇 卷九
二十二 可五〇 卷九
二十三 可五〇 卷九
二十四 可五〇 卷九
二十五 可五〇 卷九
二十六 可五〇 卷九
二十七 可五〇 卷九
二十八 可五〇 卷九
二十九 可五〇 卷九
三十 可五〇 卷九
三十一 可五〇 卷九
三十二 可五〇 卷九
三十三 可五〇 卷九
三十四 可五〇 卷九
三十五 可五〇 卷九
三十六 可五〇 卷九
三十七 可五〇 卷九
三十八 可五〇 卷九
三十九 可五〇 卷九
四十 可五〇 卷九
四十一 可五〇 卷九
四十二 可五〇 卷九
四十三 可五〇 卷九
四十四 可五〇 卷九
四十五 可五〇 卷九
四十六 可五〇 卷九
四十七 可五〇 卷九
四十八 可五〇 卷九
四十九 可五〇 卷九
五十 可五〇 卷九

を教ふ。斯て二人の教會とては長老を之ら斷食と斷禱をなし。前より信じる所の主に之を託たり。かれら遍くビシテアを経てパウリアに至り。又ヘルメスと借にアラオクノイコニオムに下り。彼處より舟にテアラオクノイコニオムに上り。此の恩を記し。今とて及て職を行へんとて出でし所なり。既に至りて教會の人を集め。己を助けて神の行たまへ。凡の事と異邦人のために信仰の門を開き給ひし事を告。期て久し。弟子等と借を彼等に止れり。ユダヤより下りし人々兄弟たちに教けるハ。若んかなら。モ一セの例に依りて。割禱を受ず。バ敬ることを得じ。之に由てパウロとヘルメスと彼等と争ひ且論せし。かハ兄弟等この事に對てパウロとヘルメスとの數人をエルサルレム上せ。使徒と長老等に對し。是に於て彼等教會の人々に送られ出。ビシテアおよびパウリアを経て。異邦人の神に歸せし事を具に述べて。兄弟等に大に喜せしめたり。彼等エルサルレムに至り。教會と使徒および長老たちに接られ。己を助けて神の行たまひし凡の事を告じ。にパウリア宗の中なる信者數人。たちて曰けるハ。使徒に必ず割禱を施し。且命じて。モ一セの例を守しむべし。使徒等および長老たち。此事を議ん。爲に集れり。好に多の論ありし。が。マテオ起て。彼等に曰けるハ。人々兄弟。よ。先きに神われを爾曹の中より選び。福音の道を我口より異邦人に開き。彼等をして之を信ぜしめ給ひし事。ハ爾曹の知とせら。也。かつ人の心を知たま。神ハ我儕に聖靈を賜し。如く彼等にも賜て。其證をなし。又信仰をもて。其心を練め。我儕と彼等の間に分を爲さざり。然に。今何故われらの先祖たちも我儕も。自われば。仰を弟子等の頸に置て。神を試むる乎。我等の報ると。如く我儕も。主イエスキリストの恩に由て。救ふこととを信する也。是に於て。人々みな。黙して。バルナバとパウロが神の己をもて。異邦人の中に。行い給へる。休し。

イ 可六廿 卷二四
ロ 可三〇 卷八
ハ 可五〇 卷九
ニ 可五〇 卷九
三 可五〇 卷九
四 可五〇 卷九
五 可五〇 卷九
六 可五〇 卷九
七 可五〇 卷九
八 可五〇 卷九
九 可五〇 卷九
十 可五〇 卷九
十一 可五〇 卷九
十二 可五〇 卷九
十三 可五〇 卷九
十四 可五〇 卷九
十五 可五〇 卷九
十六 可五〇 卷九
十七 可五〇 卷九
十八 可五〇 卷九
十九 可五〇 卷九
二十 可五〇 卷九
二十一 可五〇 卷九
二十二 可五〇 卷九
二十三 可五〇 卷九
二十四 可五〇 卷九
二十五 可五〇 卷九
二十六 可五〇 卷九
二十七 可五〇 卷九
二十八 可五〇 卷九
二十九 可五〇 卷九
三十 可五〇 卷九
三十一 可五〇 卷九
三十二 可五〇 卷九
三十三 可五〇 卷九
三十四 可五〇 卷九
三十五 可五〇 卷九
三十六 可五〇 卷九
三十七 可五〇 卷九
三十八 可五〇 卷九
三十九 可五〇 卷九
四十 可五〇 卷九
四十一 可五〇 卷九
四十二 可五〇 卷九
四十三 可五〇 卷九
四十四 可五〇 卷九
四十五 可五〇 卷九
四十六 可五〇 卷九
四十七 可五〇 卷九
四十八 可五〇 卷九
四十九 可五〇 卷九
五十 可五〇 卷九

と奇跡を述べるを聞けり。彼等が言申りし後ヤコブ答て曰ける。人々兄弟よ我に申。神初て異邦人を奉るの中より已分名を崇る民を取給ひし事ハシモツ。既に文を述。預言者の言これと符り其書に。此後われば反て已に傾圮たる。外ビテの幕屋を復た起し其破壊の跡を復た造て之を建てし。是の餘の民および凡て我名をもて稱らる異邦人に主を尋させん爲なり。此すべての事を行入神これと言と録されたるが如し。神ハ世の始より其すべての所作を知らせり。是故に我おも異邦人の中より神に歸する者を擧げし。宜からずと。然ども書を彼等に遣て偶像に汚れたる物と姦淫と動殺たる物と血とを戒むべし。うら古より安息日ごとに會堂にてモシモの書を讀が故に其を言るもの各邑におかれど也。○是に於て使徒および長老たち全會と偕に其中より人を選び之をパウロバルナバと共にプロテアクテに遣さる事を定るの選れたる人兄弟中の尊者すなはちバルサバと稱るユダ及シラクナなり。彼等の手に打て遣し書に云く使徒長老および兄弟プロテアクテスラキヤに在る異邦人の兄弟に安を問。我儕が命せざるもの我儕の中よりい。て言をもて爾曹を擧げ爾曹の心を亂たりと聞。云之に由て我儕心を同じ人を選て我儕の愛するパウロとシラクテと偕に遣さん。と定之。二人ハ我儕の主イエスキリストの名の爲に其命をも愛せりし者なり。我儕ユダとシラクテを遣し彼等の口より此事を述べしめん。とす。このハ聖靈と我儕と左の所要なるもの。外ハ何をも爾曹に任せし。定たり。即ち偶像に獻し物と血と動殺たる物と姦淫とを戒むべし。若これらの事を爾曹みづから憤らば善なれば。ハ爾曹健剛なれば。彼等遣されてプロテアクテに至り衆人を集て此書を付す。衆人これを読り勸を受けて喜べり。ユダとシラクテも亦預言者なれば。多の言を以て兄弟を勧め彼等を擧げり。斯て二人の者暫く彼處に止り後兄弟たちに安然を祝され其已を遣し。者所に送れたり。パウロと

三 律二十七
四 律二十七
五 律二十七
六 律二十七
七 律二十七
八 律二十七
九 律二十七
十 律二十七
十一 律二十七
十二 律二十七
十三 律二十七
十四 律二十七
十五 律二十七
十六 律二十七
十七 律二十七
十八 律二十七
十九 律二十七
二十 律二十七
二十一 律二十七
二十二 律二十七
二十三 律二十七
二十四 律二十七
二十五 律二十七
二十六 律二十七
二十七 律二十七
二十八 律二十七
二十九 律二十七
三十 律二十七
三十一 律二十七
三十二 律二十七
三十三 律二十七
三十四 律二十七
三十五 律二十七
三十六 律二十七
三十七 律二十七
三十八 律二十七
三十九 律二十七
四十 律二十七
四十一 律二十七
四十二 律二十七
四十三 律二十七
四十四 律二十七
四十五 律二十七
四十六 律二十七
四十七 律二十七
四十八 律二十七
四十九 律二十七
五十 律二十七

バルナバハアンテオクテに止り其餘の多の人と共に教をなし主の道を宣傳す。○數日の後パウロバルナバに曰ける。ハ我儕さきに主の道を宣し所の諸邑に復ゆ。さて兄弟の光景を奉てよべし。偕バルナバハヤコブとヨハナを伴はんと欲へり。然どもパウロハ曩にバムニアにて已より離れ從事のため共に往きりし。此ヨを伴ふハ宜らじと意し。因。遂に二人の中に辯論。論ふところ相別てバルナバハヤコブを作し。クプロに航れり。パウロハシラクテを選び兄弟より已を主の恩に托られて出立。大リヤ及びキリキヤを経て諸教會を聖せり。斯てパウロハゲルベス及ルナラに至れり。此にシモナと云る弟子あり。其母ハユダヤの婦にて信者なり。其父ハギリシヤ人也。彼ハルナラニシモナの兄弟より稱を得たり。パウロ之を携て偕に往んことを欲其處に在るユダヤ人の爲に彼に割禮を行へり。蓋人々皆かれの父のギリシヤ人なるを知心なり。斯て諸邑をすぎエルサレムにある使徒および長老等の定たる條規を守せんとて之を其人々に授く。之に由て諸教會の信仰堅なり。其數も日々に増ぬ。○彼等フルギヤとガラツヤの地を過し時アフロアに道を傳ることを聖靈に禁られ。遂にシラクテに近きヒニテに往んせし。シラクテの靈これを許さし。りければ。彼等シラクテを経てトロアスに下れり。斯てパウロ夜に於て一人のヤケトニヤ人たちて己に請フケトニヤに涉て我儕を助。と曰を幻に見たり。彼が幻に之を見し後。わら。誠に主の我儕をしてヤケトニヤ人に福を宣しめんと。我儕を召給ふことを推量して直にヤケトニヤに往んとす。是に於てトロアスより航海をじ。真直にはせてサモトラケに至り。其次日チアポリスに往。彼處よりピリビに。至るピリビハケトニヤの一分の中なる各ある邑にして。即ち殖民地なり。我儕數日この邑に止れり。安息日に我儕邑をいで河の濱ホ

一 律二十七
二 律二十七
三 律二十七
四 律二十七
五 律二十七
六 律二十七
七 律二十七
八 律二十七
九 律二十七
十 律二十七
十一 律二十七
十二 律二十七
十三 律二十七
十四 律二十七
十五 律二十七
十六 律二十七
十七 律二十七
十八 律二十七
十九 律二十七
二十 律二十七
二十一 律二十七
二十二 律二十七
二十三 律二十七
二十四 律二十七
二十五 律二十七
二十六 律二十七
二十七 律二十七
二十八 律二十七
二十九 律二十七
三十 律二十七
三十一 律二十七
三十二 律二十七
三十三 律二十七
三十四 律二十七
三十五 律二十七
三十六 律二十七
三十七 律二十七
三十八 律二十七
三十九 律二十七
四十 律二十七
四十一 律二十七
四十二 律二十七
四十三 律二十七
四十四 律二十七
四十五 律二十七
四十六 律二十七
四十七 律二十七
四十八 律二十七
四十九 律二十七
五十 律二十七